

令和元年度第1回新川地域医療推進対策協議会、新川地域医療構想調整会議
及び新川地域 医療と介護の体制整備に係る協議の場 議事要旨

開催日時 令和元年8月26日(月) 19:00~20:30

開催場所 コラーレマルチホール

議事要旨

- 1 開会
- 2 挨拶(事務局)
- 3 議題1~5について説明
- 4 質疑応答
- 5 閉会の挨拶(新川厚生センター所長)

【質疑応答】

- 1 今後の地域医療構想の進め方について、
- 2 介護医療院への転換の状況について、
- 3 「外来医療計画」の策定について、
- 4 新川医療圏の一般病床、療養病床の状況について、
- 5 新川医療圏の在宅医療・介護連携について

(委員)

資料1-2の外来医療計画の策定について、医師多数区域は外来医師偏在指標が全二次医療圏の中で上位33.3%に該当する区域とあるが、1/3以上に設定された理由を教えてください。

また、外来医師多数区域において新規開業者に対し、地域で不足する外来医療機能を担うことを求めるとあるが、どなたが求められるのか、もしそれに従わない場合、罰則規定があるかどうかお聞きしたい。

(事務局)

外来医師多数区域を上位1/3以上に設定された理由について、正確に把握していないのですぐ説明ができない。確認し次回説明する。

外来医師多数区域において新規開業者に対し、地域で不足する外来医療機能を担うことを誰が求めるかという、県厚生部。富山市の場合は富山市が求める。

協力を求めるということで、罰則等はない。

(委員)

外来というのは診療科ごとに計算するのか。

(事務局)

診療科ごとではなく全体の数字である。

(委員)

眼科・内科等すべてひっくるめてか。

(事務局)

そうである。

(委員)

民間病院の立場から、公的・公立病院も病床機能の見直しを行っているとのこと報告があったが、民間病院も資料にあるように、医療病床も介護病床も見直しをして、随時移行を進めている。データを見ていくと富山県・新川圏域の慢性期の移行は比較的進んでいるのではないかと思う。

今後も残っている病床をどのようにしていくのか。医療の改定ごとに民間病院は変換をしていくと思うが、今後の動向を見ていく必要があると思う。

そのなかで公的病院はやはり急性期に特化してやっていっていただきたいと思っている。民間病院はどうしても高度急性期・急性期の機能は担いにくく、民間でできること、地域包括や回復期はがんばってやっていくので、公的病院と民間病院の役割分担が今後必要となってくると思う。さらに連携を深めてやっていきたい。

(事務局)

ひとつご理解をいただきたいのは、あさひ総合病院の地域包括ケア病棟、富山労災病院も地域包括ケア病棟を考えていきたいとのことだったが、地域包括ケア病棟というのはいろいろな機能が入っている。急性期の患者さんも回復期・慢性期の患者さんも入っている。地域医療構想の必要病床のなかでは回復期機能の病床が必要ということもあって、地域包括ケア病棟が公的・公立病院などで進められている。基本的には民間では回復期に特化した病棟は難しいということもあって、地域医療構想の将来的な必要病床を踏まえた検討がされている。

医療連携・病院の機能分化については、脳卒中あるいは心血管疾患の部会の中で協議していきたい。

(委員)

外来医療計画について、外来医療の機能を可視化し情報提供することは重要と思っている。可視化することで機器の台数が全国平均より多いとか、診療科ごとに見ると偏在しているといった課題が見えてくる。課題と今後どうあるべきかといった方向性も計画に盛り込んでいただくと、よりよいものになるのではないか。

(事務局)

管内の診療所7か所にCT・MRIが入っており、一見するとCT・MRIは人口に比べると多いように見える。今年度、診療所を訪問し状況を確認することとしているが、よく話を聞くと実際には使われていない機器もあるらしく、設置箇所数だけでなく活用状況も把握しながら検討していく必要があると考えている。それも含めて診療所の立ち入りを行って情報収集し確認、検討していきたい。